

## りそな ダイナミック・アロケーション・ファンド(愛称:攻守のチカラ) 最近の運用実績について

2016年4月11日

平素は、「りそな ダイナミック・アロケーション・ファンド(愛称:攻守のチカラ)」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。当ファンドの(1)最近の運用実績、(2)アロケーション比率決定基準の改良について、お知らせいたします。

### 《基準価額・純資産の推移》

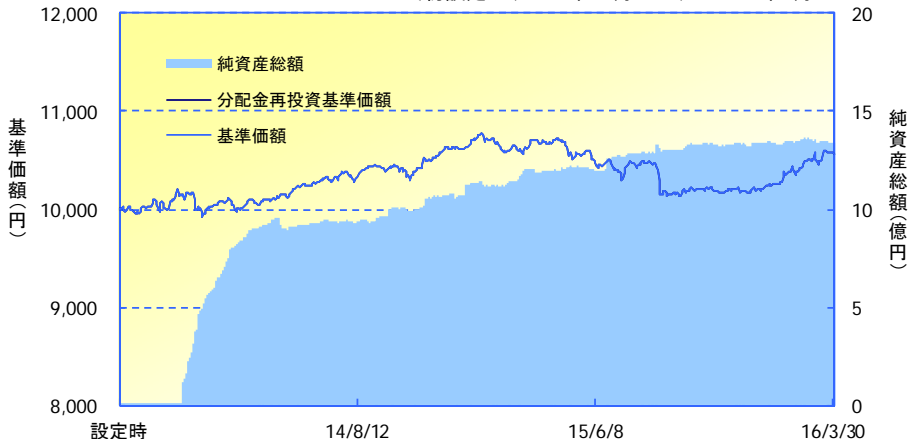
※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

2016年3月31日現在

基準価額	10,560 円
純資産総額	13億円

### 期間別騰落率

期間	ファンド
1カ月間	+0.7 %
3カ月間	+3.6 %
6カ月間	+3.7 %
1年間	-1.0 %
3年間	----
5年間	----
年初来	+3.6 %
設定来	+5.6 %



※「分配金再投資基準価額」は、分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものです。

※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

### 《ファンドマネージャーのコメント》

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

当ファンドは、資産配分比率(安定重視資産と成長重視資産および各資産クラスの配分比率)について、株式会社りそな銀行の助言を受けます。助言は、複数のグローバル関連指数を合成して作成する『リスク選好指数』を参考にして行われます。

### (1)最近の運用実績について(2015年9月～2016年3月)

2015年9月から2016年3月の間は、世界的な株価下落により成長重視資産の価格下落が顕著な局面となりましたが、この間の安定重視資産を重視した資産配分により、当ファンドの基準価額は底堅い値動きとなり、3.7%上昇しました。設定来では5.6%の上昇となっています。

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

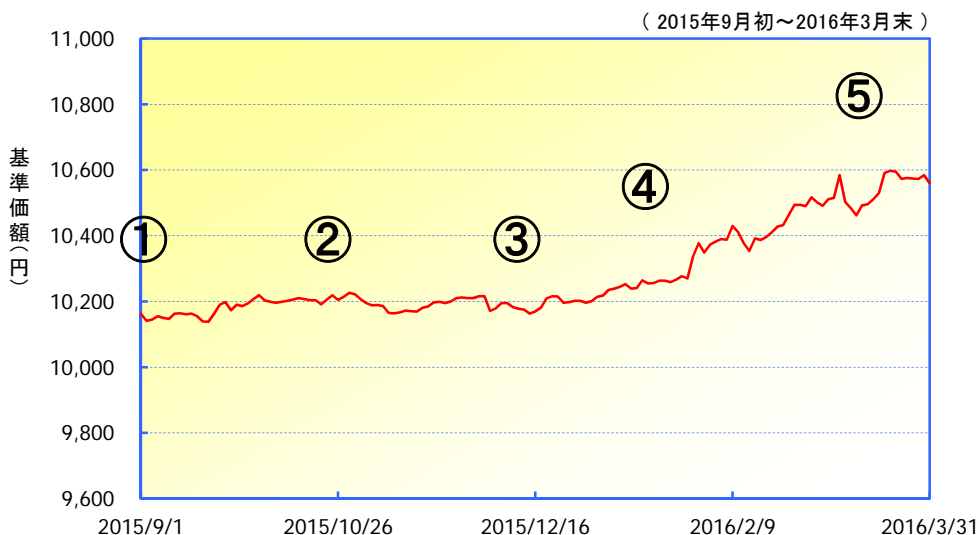
■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡す「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

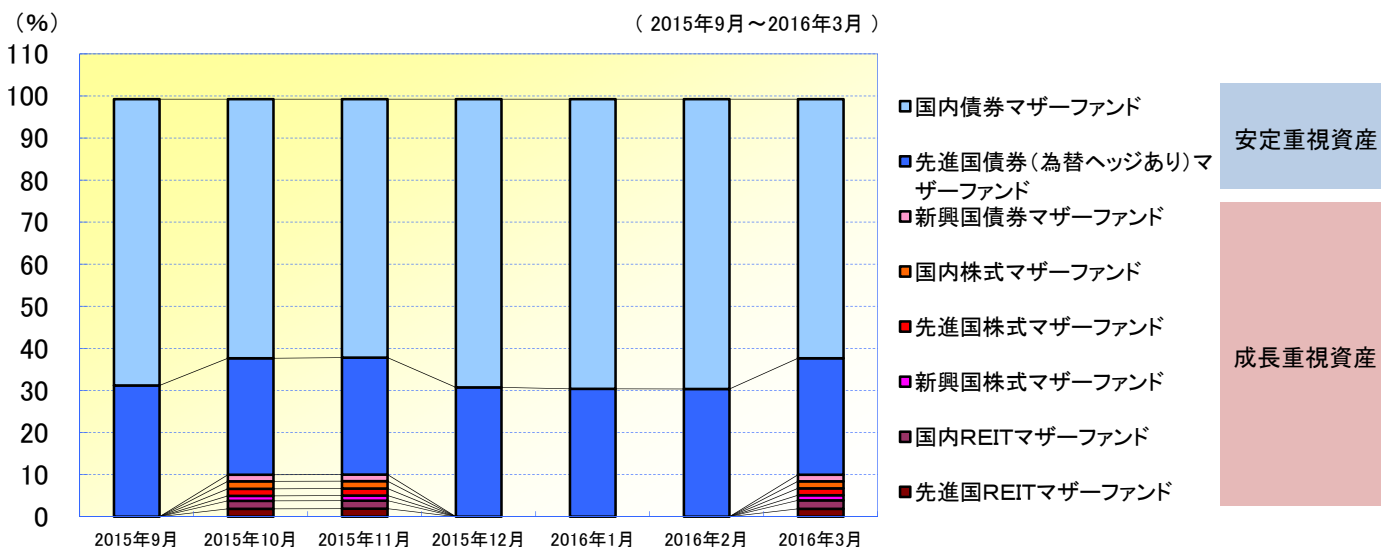
イベント	ファンド
① 2015年8月下旬－ 中国株式市場の大幅な下落により、 世界の金融市場が動揺	→「攻め」を0%に
② 2015年10月下旬－ ECB(欧州中央銀行)ドラギ総裁、追加緩和示唆	→「攻め」を10%に
③ 2015年12月－ ECB追加緩和、市場予想を下回る内容	→「攻め」を0%に
④ 2016年1月－ 世界的な株安、原油価格の下落	→「攻め」を0%に維持
⑤ 2016年3月上旬－ 過度な世界景気減速への懸念緩和 欧州系金融機関の収益悪化懸念緩和	→「攻め」を10%に

※「攻め」は成長重視資産。

《直近の基準価額の推移と各資産の組入比率（マザーファンド別）の推移》



※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。



※ダイワ・マネー・マザーファンド以外の各マザーファンドの月末時点の組入比率(対純資産総額比)の推移を表示しています。

## (2)アロケーション比率決定基準の改良について

現在、「成長重視資産」と「安定重視資産」の比率(いわゆる「攻め」と「守り」の比率)は、定期的(月1回)に見直しを行っています。また、リスク選好指数が月中に「リスクオフ」方向に変化した場合には、株式会社りそな銀行からの臨時助言を受けて不定期に配分比率を見直すこともできるファンドです。

この仕組みに、2016年4月1日以降、以下の変更を加えることを決定しました。これらの変更によって、当ファンドが市場の変化をさらに敏感に感じ取り、より機動的に「攻め」と「守り」の比率を変化させていくことが可能になると考えます。

変更点
<p><b>【定期的な見直しに関する変更】</b>…より細やかに対応ができるように変更</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ リスク選好指数の水準と資産配分比率の対応関係を見直し、指数の変化が、資産配分比率により細やかに反映されるように変更します。</li> </ul>
<p><b>【臨時的な見直しに関する変更】</b>…より機動的に見直しができるように変更</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 月中にリスク選好指数が「リスクオフ」方向に変化した場合の、臨時助言が発生する基準を追加し、臨時助言の頻度を増加させます。</li> <li>➢ 月中にリスク選好指数が「リスクオン」方向に大きく変化した場合についても、臨時助言を可能とします。</li> </ul>

私どもは「攻守のチカラ」が、お客様の大事な資産を安定的に育てることを目指す投資信託であると考えています。引き続きご愛顧くださいますよう、どうぞ宜しくお願いいたします。

以上

## りそな ダイナミック・アロケーション・ファンド (愛称: 攻守のチカラ)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

### ファンドの目的・特色

#### ファンドの目的

内外の債券、株式およびリート(不動産投資信託)に投資を行ない、市場の局面判断および投資対象のリスク水準等によって配分比率を調整することで、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざします。

#### ファンドの特色

- 8つの資産クラスの配分比率を調整することで分散投資を行ないます。  
◆投資対象を相対的に価格変動リスクが小さいと考えられる資産(安定重視資産)と相対的に価格変動リスクが大きいと考えられる資産(成長重視資産)に区分します。



※各資産クラスへの投資にあたっては、各市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。

※先進国国債・株式・リーートの資産クラスには、日本の国債・株式・リートを含みません。

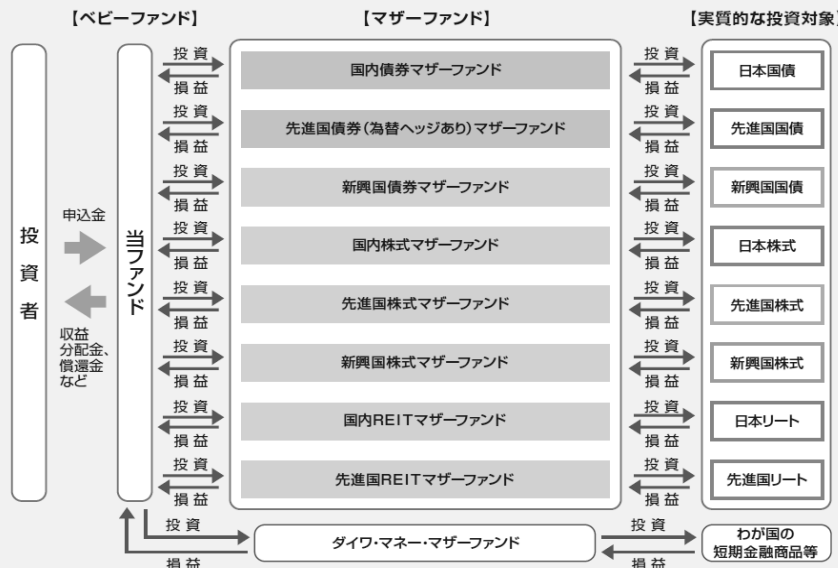
- ◆安定重視資産および成長重視資産の組入比率を、市場の局面判断に基づいて定期的に見直します。



\*市場環境によっては、信託財産の全部または一部を、わが国の短期債、コマーシャル・ペーパー等による運用に一時的に切り替える場合があります。

- ◆安定重視資産内および成長重視資産内での配分比率は、投資対象のリスク水準等を勘案して決定し、定期的に見直します。
  - ・リスクの低い資産クラスの配分比率を高くする一方、リスクの高い資産クラスの配分比率を低くするよう調整します。
- 2. 資産配分比率について株式会社りそな銀行の助言を受けます。  
◆成長重視資産と安定重視資産の配分比率および各投資対象資産クラスの配分比率等の助言を受けます。
- 3. 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。

ファミリーファンド方式とは、投資者のみなさまからお預かりした資産をまとめてベビーファンド(当ファンド)とし、その資金をマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。



※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。



## りそな ダイナミック・アロケーション・ファンド (愛称: 攻守のチカラ)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書 (交付目論見書)」をご覧ください。

### 投資リスク

●当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の変動要因は、以下のとおりです。

「価格変動リスク・信用リスク (株価の変動、公社債の価格変動、リートの価格変動)」、「有価証券 (指数) 先物取引の利用に伴うリスク」、「為替変動リスク」、「カンントリー・リスク」、「当ファンドの戦略に関するリスク」、「その他 (解約申込みに伴うリスク等)」

※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書 (交付目論見書)」の「投資リスク」をご覧ください。

### ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 (上限) <b>2.16% (税抜 2.0%)</b>	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	<b>年率 1.296% (税抜 1.2%)</b>	運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎計算期間の最初の6か月終了日 (休業日の場合翌営業日) および毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁します。
その他の費用・手数料	(注)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注) 「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。また、上場不動産投資信託は市場価格により取引されており、費用を表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書 (交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご覧ください。

販売会社:



りそな銀行

埼玉りそな銀行

近畿大阪銀行

設定・運用:

大和投資信託

Daiwa Asset Management

商号等 株式会社りそな銀行  
登録金融機関  
近畿財務局長(登金)第3号  
加入協会 日本証券業協会  
一般社団法人金融先物取引業協会

株式会社埼玉りそな銀行  
登録金融機関  
関東財務局長(登金)第593号  
加入協会 日本証券業協会  
一般社団法人金融先物取引業協会

株式会社近畿大阪銀行  
登録金融機関  
近畿財務局長(登金)第7号  
加入協会 日本証券業協会

商号等 大和証券投資信託委託株式会社  
金融商品取引業者  
関東財務局長(金商)第352号  
加入協会 一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会